

主の恵みとさばきを歌う

2021年6月27日

詩篇 101篇

序：王ダビデの決意の表明、自分への戒め、誓い
だれも勧告、指摘する者がいない cf. 預言者ナタン
神学校の卒業式

I. 主の恵みとさばきを歌う

私は、あなたにほめ歌を歌う

愛 義
慈しみ 聖
救い 審判

どちらかに偏重しない（どちらも主なる神のご性質・御業：矛盾しない）
相反しない 相互に際立たせる

罪の増し加わるところに恵みも満ちあふれる

↓

さばかれるべきもの

バテ・シェバ事件の後に歌われたか？（大罪 ⇒ 悔い改め ⇒ 赦し ⇒ 再起
さばきの厳粛さを知った = 恵みの広さ、深さを再認識

II. 私人（神に造られたひとり人間）としての神への誓い・決意 2～3節

私生活・家庭生活におけるきよい生活

(1) 全き道に心を留める

↓

主の道（神のみこころ、みことばに示された生き方）

主のとがめを受けない正しい聖潔さ、従順すれば失敗なし

いつ、来られても良い、見られてもよい

(2) 全き心で行き来する

↓

隠し立てしない、嘘をつかない、憎悪、放任しない、詫びる

家（家庭）の中を （夫、父、家長）

最も緊密な人間関係（善きも悪しきも）、素のままの姿

(3) 卑しいこと、曲がったわざを遠ざける

それらに誘惑されないため、支配されないため

判断力、決断力

Ⅲ. 公人（神に選ばれ、立てられた王）としての決意と誓い 4～7節

宮廷で、王として公務についている時（職場、仕事）

- (1) 策謀する者、悪を企てる者を離反
自分から離れて行くように
- (2) 口撃する者、傲慢不遜な者を退ける
口先だけではなく、実際に成敗
- (3) 真実な人たち、正しい者だけが王に仕える
- (4) 欺く者、偽りを語る者は、王の前に堅く立てない
一時的に立ったとしても、早晚崩壊する（不安定）

Ⅳ. 国家を維持し、さばく統治者としての決意と誓い

毎朝、朝ごとに

- (1) 国中の悪者を滅ぼす
- (2) 都から不法者を断ち切る

滅ぼしても、断ち切ってもまた新手が生じる、絶えることはない

しかし、倦まずたゆまず…… 少なくとも滅ぼした者だけは減っていく

Ⅴ. 結び

- (1) 私たちに直言、助言、諫めてくれる人は多くはない？
- (2) 私生活、公的生活、国民としての生活で他の人たちとつながっている
- (3) すべてを見、知っておられる主なる神に相談相手になっていただく
避けるべきことと人、ともに住み、ともに歩むふさわしい人
- (4) 個人の価値、その国の価値は何によって決まるのか？
- (5) 人格、国の品格、道徳、教育により、他から評価される
財力、軍事力、政治力そのものではなく、それをを用いる人間こそ重要
キリスト信者は、主の救いによって自由にされている、いわば王の立場
- (6) しかし、責任がともなう自由（判断、決断、実行）
主の基準（みことば）に基づいて
主の視点、みことばを通して、今の自分、国家、世界を知り行動
- (7) 恵みとさばきの両方を賛美する
さばきが分かる 恵みがわかる 相乗、増幅